

一般口演

一般口演17

教育・研究分析

2018年11月24日(土) 15:20 ～ 17:20 I会場 (福岡サンパレスH平安（中継未広）)

[3-I-2-6] 中小規模病院に勤務する看護師を対象とした看護情報の活用に向けた継続教育の評価

○高見 美樹, 西海 英子, 小村 晃子, 中西 永子, 石垣 恭子（兵庫県立大学大学院）

【はじめに】本研究では、3つの中小規模病院に勤務する看護師を対象とし、看護研究における看護情報の活用に関する研修を実施した。実施後、その受講者を対象に自記式アンケート調査を行った結果を基に、実施した継続教育の評価を行ったので報告する。【目的】臨床看護研究の指導者となり得る臨床看護師を対象に実施された、看護情報の活用に向けた看護研究に関する継続教育の評価を行うことを目的とする。【方法】臨床看護研究における看護情報を活用するための継続教育について、過去の研究結果に基づいて講義および演習内容について検討を行い、研修プログラムを立案した。その後、中小規模病院3施設に勤務する看護師の中で、臨床看護研究の指導者となり得る臨床看護師を対象に、立案した研修プログラムに沿って看護情報の活用に向けた看護研究の継続教育を平成28年～29年の2年間に於いて計5回実施した。研修終了後、受講者を対象に、講義内容についての理解に関する項目、電子カルテの必要性や看護情報の二次活用に関する項目について、研修前後における理解の度合いを、ビジュアルアナログスケール（VAS）を用いて「全くわからない（全くできない）」から「よくわかる（よくできる）」まで、0～10点に数化し、各々の項目における点数を問うた。【結果及び考察】アンケート調査では、3施設においてA病院46名、B病院12名、C病院18名の計76名に調査を実施した。職位は、看護師が最も多く53名、次いで主任が8名であった。各々の施設では、看護業務に電子カルテシステムが導入されていた。研修内容である「EBNについて理解できましたか」については、研修前の平均が1.82ポイントであったが、研修後は5.21ポイントと上昇していた。他の項目についても、研修後にポイントが高くなる傾向が認められ、本研修の実施が、看護情報の活用に向けた看護研究についての理解を深める一助になったと考えられた。

中小規模病院に勤務する看護師を対象とした看護情報の活用に向けた 継続教育の評価

高見美樹^{*1}、西海英子^{*1}、小村晃子^{*1}、中西永子^{*1}、石垣恭子^{*1}

^{*1} 兵庫県立大学大学院応用情報科学研究科

Evaluation of the continuation education for the inflection of the nursing information for nurses working in a small and medium size scale hospital

Miki Takami^{*1}, Eiko Nishiumi^{*1}, Akiko Omura^{*1}, Eiko Nakanishi^{*1}, Kyoko Ishigaki^{*1}

^{*1} Graduate School of Applied Informatics, University of Hyogo

We drew up continuation educational program to utilize nursing information in reference to a past study this time. I carried out continuation educational program for the nurses who worked in three in a small hospital afterwards. After the training end, we investigated an understanding degree in before and after training about an electronic chart and second inflection of the nursing information for attendance students.

The questionnaire survey carried out an investigation for 46 A Hospital, B Hospital 12, 76 nurses of 18 C Hospital in total. Is training contents; average before the training was 1.73 points, but rose with 5.26 points after the training whether "was able to understand EBN".

Keywords: nursing research, nursing information, continuing education

1. はじめに

地域包括ケアの構築が進む中、平成 28 年度の診療報酬改定では、各施設における機能強化や連携強化が求められており、中小規模病院においては、地域と密着し、住民の健康を支える役割が求められている。その役割を果たすためには、看護の質向上につながるような教育体制の整備や、電子カルテを活用したデータ収集、ケアの評価を行うことが必要である。

中小規模病院では、業務の煩雑さや人員不足から研修時間を確保することが難しく、継続教育の実施状況には施設間格差があると指摘されている¹⁾。しかし、継続教育は、看護の知識体系と実践に関連するものであり、看護実践能力、組織的役割遂行能力、自己教育・研究能力の育成に貢献するものであり、中小規模病院に勤務する看護師においても、電子カルテを活用したデータ収集や、ケアの評価など、看護の質向上に向けた看護研究に取り組む必要性は高い。

そこで本研究では、3 つの中小規模病院に勤務する看護師を対象とし、看護研究における看護情報の活用に関する研修を実施した。実施後、その受講者を対象に自記式アンケート調査を行った結果を基に、実施した研修の評価を行ったので報告する。

2. 研究目的

臨床看護研究の指導者となり得る臨床看護師を対象に実施された、看護情報の活用に向けた看護研究に関する継続教育の評価を行うことを目的とする。

3. 研究方法

3.1 研修プログラムの立案

臨床看護研究における看護情報を活用するための継続教育について、過去の研究結果²⁾に基づいて講義および演習内容について検討を行い、研修プログラムを立案した。

3.1.1 研修目標

臨床看護師が臨床看護研究実践者の支援ができるようになるために、看護研究実践の基礎的知識と代表的な統計手法を理解する。

3.1.2 研修プログラム

- 1) 講義(220 分)
 - ・ 電子化社会における情報倫理と看護研究
 - ・ 看護研究・EBN・情報技術
 - ・ 情報の二次利用
 - ・ 統計の基本(尺度、基本統計量、t検定、相関、 χ^2 二乗検定)
- 2) 演習(140 分)
 - ・ 教育用模擬電子カルテシステムを用いたデータ抽出と処理*
(研修会場のネット環境により未実施の研修あり)
 - ・ アンケート調査のデータ入力方法
 - ・ 模擬データを用いた統計の基本(Excel)

3.2 研修の実施

中小規模病院 3 施設に勤務する看護師の中で、臨床看護研究の指導者となり得る臨床看護師を対象に、立案した研修プログラムに沿って看護情報の活用に向けた看護研究の継続教育を平成 28 年～29 年の 2 年間に計 5 回実施した。

200 床未満の病院に勤務する看護師を対象とした研修では、教育用模擬電子カルテシステムを用いたデータ抽出と処理の演習を実施したが、それ以外の研修では、研修会場のネット環境により演習を実施することができなかった。

3.3 研修の評価

研修終了後、受講者を対象として、講義内容の研修前後における理解度を測定するためにビジュアル・アナログスケール(VAS)を活用した質問紙調査を実施した。調査結果は、「全くわからない(全くできない)」から「よくわかる(よくできる)」まで、0 を起点とした長さを測定し点数化し、各々の項目における点数を用いて検定を行った。また、教育用模擬電子カルテを用いたデータ抽出と処理の演習を実施したグループと、実施できなかったグループにおける理解度の違いを確認した。

4. 結果

4.1 対象者の属性

調査対象者は、200床未満の病院に勤務する看護師18名、400床未満の2つ病院に勤務する看護師58名の計76名である。全ての施設において、電子カルテが導入されている。

職位は、副看護部長1名、看護師長7名、主任8名、看護師53名、その他1名、不明6名である。

4.2 研修の評価

各項目において、「全くわからない(全くできない)」から「よくわかる(よくできる)」まで0～10点とし、研修前後における理解度を調査した結果、研修前後の平均点および、研修前後で対応のあるt検定を行った。

表 1.研修前後の平均点とt値

項目	研修前	研修後	t 値
1.EBN について理解できましたか？	1.73	5.26	-12.62**
2.データの尺度について理解できましたか？	1.48	5.11	-12.44**
3.データ入力について理解できましたか？	1.99	5.84	-12.86**
4. クロス集計について理解できましたか？	1.15	4.82	-13.21**
5. t 検定について理解できましたか？	1.25	5.18	-13.64**
6.相関係数と因果関係について理解できましたか？	0.97	5.03	-13.79**
7. χ^2 二乗検定について理解できましたか？	1.11	4.9	-13.38**
8.電子カルテの特徴がわかりましたか？	4.19	6.77	-10.15**
9.電子カルテの操作性はどう思われますか？	4.58	6.26	-8.15**
10.電子カルテの演習の必要性についてどう思われますか？	5.67	7.2	-6.18**
11.どこを見れば自分の得たい情報があるかわかりますか？	5.04	6.66	-7.06**
12.看護におけるシステム化によって得られる効果がわかりますか？	4.82	7.03	-8.34**
13.情報を二次利用することによって得られる効果がわかりますか？	4.11	6.87	-9.39**
14.看護における情報の二次利用について具体的にイメージできますか？	3.9	6.57	-9.18**
15.電子カルテや患者情報を取り扱う際に情報倫理を踏まえプライバシー保護の重要性がわかりますか？	6.29	8.25	-7.32**
16.電子カルテや患者情報を取り扱う際に情報倫理を踏まえ情報セキュリティの重要性がわかりますか？	6.22	8.43	-7.90**

**p<0.01

電子カルテの使用及び情報の二次利用に関連した研修項目における理解度を調査した項目では、教育用模擬電子カルテ演習の実施の有無による平均点および、対応のあるt検定を行った。

表 2.教育用模擬電子カルテ演習の有無による平均点とt値

項目	演習有	演習無	t 値
8.電子カルテの特徴がわかりましたか？	7.95	6.25	-3.68**
9.電子カルテの操作性はどう思われますか？	6.99	5.93	-2.26*
10.電子カルテの演習の必要性についてどう思われますか？	8.74	6.55	-4.06**
11.どこを見れば自分の得たい情報があるかわかりますか？	7.76	6.39	-2.62*
12.看護におけるシステム化によって得られる効果がわかりますか？	8.22	6.53	-3.45**
13.情報を二次利用することによって得られる効果がわかりますか？	8.05	6.49	-2.55*
14.看護における情報の二次利用について具体的にイメージできますか？	7.94	6.07	-3.07*

*p<0.05, **p<0.01

5 考察

研修前の理解度を見ると、研修項目では、EBN やデータの尺度、クロス集計、t 検定、相関係数、 χ^2 二乗検定など、統計処理に関する項目は、他の項目よりも平均点は低かったが、今回、評価した全ての項目において研修後の平均点が有意に高くなっており、今回実施した研修が、各研修項目の理解度に影響を与えている可能性があると考えられた。

また、教育用模擬電子カルテ演習の実施の有無における研修実施後の理解度については、教育用模擬電子カルテ演習を実施した群の平均点が有意に高くなっており、教育用模擬電子カルテ演習の実施が理解度に影響を与えている可能性があることが考えられた。このことから、今後、本研修を行う際には、教育用模擬電子カルテの演習を盛り込むことで、より理解を深める研修を実施することができると考えられた。

臨床現場では、看護研究は継続教育の一環として実施されており、中小規模病院においても看護研究の指導者が不足しているものの看護の質向上に向けて看護研究を実施する必要性は高い。また、中小規模病院においても、電子カルテを導入する施設が増えてくると考えられることから、本研修を実施することで、データ抽出や処理など、看護研究を実施する臨床看護師の身近に、看護研究について相談できる指導者の養成が求められると考える。

本研究は、平成 28～30 年度科学研究費補助金(基盤研究(C)課題番号 16K11954)を受けて行った研究の一部である。

参考文献

- 1) 青山ヒフミ、森迫京子、米谷光代、岡田美千代、草岡清子、田中睦子他、中小規模病院で勤務する看護師の継続教育に関するニーズ、大阪府立看護大学紀要 11(1)、2005:1-5.
- 2) 小村晃子、石垣恭子、西海英子、高見美樹、竹村匡正、岡崎美智子、宇都由美子、看護情報を有効利用するための継続教育システムの開発、第 37 回医療情報学連合大会、2017:424-429.
- 3) 西海英子、中西永子、高見美樹、石垣恭子、中小規模病院における看護研究のためのデータ処理研修の効果、第 19 回日本医療情報学会看護学術大会論文集、2018:229-230.